

表彰団体の活動概要(優秀賞)

ブロック	団体名	市町村	活動概要
札幌	江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会加工部会	江別市	農閑期の11月～3月には、市内外から毎年3,300人程が訪れる「農家のかあさん土曜日」を開催している。「えべつかあさんブランド」としての加工品の認証、PRや商品開発にも取り組んでいる。また、地元高校生の農業体験の受け入れや消費者との体験バスツアー、イベントの開催などの交流活動も継続して行っている。
	特定非営利活動法人 サトニクラス	月形町	ハンディキャップを抱えながら社会参加を目指す人々と共に、障害者雇用と農作業の受託による地域農業の6次産業化と農福連携に取り組み、地元高齢者の知恵を生かした漬物づくりや乾燥野菜づくりを事業化している。夏季には農家と連携して直売所を開設したり、札幌市内へ出張販売を行うなど都市と農村の交流事業を行っている。
函館	一般社団法人 i:スマイル	今金町	平成29年4月、今金高等養護学校等の卒業生など障害者2名を職員として雇用。人口減少対策や地域経済再生を目的に、障害者に健常者と同様に業務を行ってもらうことで、障害があっても活躍できるビジネスモデルを構築し、多様な人材が活用できるまちづくりを目指す。業務として、農作業(ミニトマトやシイタケの栽培管理。収穫)や観光案内業務、お土産・地場農産物の販売業務を実施している。
小樽	北海道真狩高等学校	真狩村	小学生、生産者、企業、役場、教育委員会と連携し、今まで野菜がほとんど使われることのなかったスイーツ分野で、商品開発から販売までを高校生主体で行い、道の駅でカフェを運営。また、希少品種の大豆を小学生と栽培し、豆腐を製造。地元企業と農家と共同開発した豆腐ピザや豆乳プリンの販売。「野菜スイーツで村を元気に」を合言葉に、高校生パティシエが村の活性化事業に取り組んでいる。
旭川	ふらのカレンジャー娘	富良野市	地産地消のご当地グルメ「富良野オムカレー」をツールとして、地域の持続的発展と活性化を図るため、①企業等と連携したオムカレーの試食提供、PR活動、②地元小学校等と連携した食育活動、③地元イベントでのオムカレー提供によるPR、④地元コミュニティカフェを借り、農畜産物を活用した富良野オムカレーを市民へ提供する、といった活動に取り組んでいる。
室蘭	JAとまこまい広域 厚真町ハスカップ部会	厚真町	厚真町ハスカップの販売振興及び産地をPRなどするため、対面販売・各種イベント・物産展への出展を実施していると共に冷凍ハスカップの賞味期限標記調査を実施している。
釧路	北海道中標津農業高等学校 マネージメント研究班	中標津町	地域の幼稚園、義務教育学校と連携を図り、計根別地域の全ての子どもたちを対象とした食農教育を展開し、学年に合わせ、畑作や酪農、食品加工など幅広い分野から「農業」に向き合うことができる活動を行っている。今年度からは地域住民の「小さな地区に大きなイベントを」という声に応え、計根別地域全体をハロウィンカボチャで飾りつける「計根別景観UP大作戦」を新たに実施している。
	歯舞地区マリンビジョン協議会	根室市	歯舞地域における将来の漁業振興と観光振興構想である「歯舞地区マリンビジョン計画」に基づいた多様な取り組みを展開し、水産業はもとより地域経済や社会の活性化を目指している。特に歯舞水産物のブランド化を中心に位置付け、ブランド化への取り組みを通じた漁業振興、また、漁民泊や漁業体験、クルージング等を通じた交流人口の増加による地域の活性化に向けて関係者が一丸となって継続的に取り組み、活気のある漁村づくりを推進している。
	特定非営利活動法人 美しい村・鶴居村観光協会	鶴居村	暮らすように旅をする”農村でのんびり過ごす”新たな旅のスタイル「農泊」の確立へに向け、丹頂や釧路湿原、酪農景観など豊かな観光資源がある鶴居村で、地域住民と連携を図りながら牧歌的な景観が広がる農村地域の産業や文化を活かし、住んでいる人との交流をする長期滞在型の新しい旅のスタイル「鶴居村版農泊」に取り組んでいる。
帯広	北海道士幌高等学校 乳加工専攻班	士幌町	士幌高校産牛乳を利用し、地域の魅力を詰め込んだ「スプカの雪解け」の開発と地域特産品化に取り組んでいる。地域特産品化へ向けた活動は、士幌町内に新たな会社「(株) CheerS」の立ち上げにつながり、町の課題である人口減少解消に向けた挑戦へと広がり続けている。
網走	網走川土地改良区	美幌町	「日本最東端の田んぼの学校」を町内に住む親子を対象に開催し、子供達に農業体験や自然観察を経験してもらうことにより、地域住民に地産地消、農村景観の保持、農業用施設の多面的機能等の重要性を伝えている。
留萌	株式会社 SOUL OBIRA	小平町	道の駅おびら鯉番屋を拠点とし、地域商品・地元生産品の試食・販売や漁業者や農業者などと新たな商品開発を行うなど、町内外はもとより国内外に小平町のポテンシャルを周知させるための活動を行っている。
稚内	豊富温泉コンシェルジュ・デスク	豊富町	コンシェルジュ・デスクは豊富温泉の総合案内所として、湯治の相談を始め宿泊施設の案内などを行っており、湯治客の憩いと交流の場として、地元からの協力のもとで様々なイベントを企画している。

表彰団体の活動概要(奨励賞)

ブロック	団体名	市町村	活動概要
札幌	株式会社ふるさとファーム	札幌市	札幌産野菜を打ち出し、主にハウスでミニトマトを栽培している。ふるさとファームを中心とした近隣農家との圃場を「野菜のなる公園」と称して、農業体験とビニールハウスなどでの調理体験を組み合わせた「実践型食育活動プログラム」を開催している。高齢者にボランティアで指導をしてもらうこと等の異世代交流もあり、地域の活性化に繋げている。
	江別酒米栽培グループ「すいせい」	江別市	安心・安全な美味しい江別のお米(酒造好適米「彗星」)で地酒を作りたい、との想いから立ち上げたグループ。地酒「瑞穂のしずく」の普及、宣伝のため、新酒発表会や聞き酒大会等のPR活動や、子供たちや消費者との農業体験、酒蔵見学、講演、圃場見学などを行うことで、農業への理解を深めてもらう活動に力を入れている。
	千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会	千歳市	新千歳空港から車で15分程度の所から広がる美しい畑や牧場の景観を活かして、千歳観光連盟と協力して主に道外の修学旅行生の受入を行っている。また、「千産千消」(地産地消)をコンセプトに、地域マップの作成、イベントへの出店、食育講座や交流パーティーの開催などの地域に密着した取組を10年以上継続している。
函館	谷観光農場	北斗市	観光と農業の町を知って楽しんでほしいという思いから始めている。イチゴ、さくらんぼ、トマト、とうもろこし等の収穫体験を実施し、近郊の函館等だけでなく旅行会社を通じて外国人のツアーを呼び込み、地域の活性化につなげている。また、野菜や果物の直売、取れたて野菜のパーベキュー、食育インストラクターによる食と健康のアドバイスも実施している。
	七飯の食を考える会	七飯町	平成28年1月、「弁当の日」を提唱する竹下和男さんを招いて取組を開始。軍川小学校では作物の種まきや収穫などの農作業体験と併せて料理教室を学ぶ等の「食」をテーマとして一貫した学習活動を行っている。また、農家の畑や加工場の見学も行っている。七飯の食を考える会としては、七飯町の食を料理体験と学びで深く味わいながら「食のふるさと」を大切に人々が育つ街を目標に活動を行っている。
	素敵な過疎づくり株式会社	厚沢部町	過疎という現実から目をそむけることなく、マイナスイメージをプラス思考に切り替えていこうという趣旨で進めている。「厚沢部町ちよつと暮らし」を実施し、ゆったりした住宅に長短期で住み町民と交流してもらうことで、厚沢部町への移住促進を行う。また、道外大学のアウトキャンパススタディ・小学校の修学旅行誘致により、農業への理解と厚沢部ファンを獲得する。また、町の特産品「メークイン」を使ったコロッケ料理コンテストを実施し、町と特産品を全国にアピールするとともに、商品化して道の駅や東京のアンテナショップで販売することで、農業・地元経済の活性化に資することを目指している。
小樽	ワインを楽しむ会	余市町	余市産ぶどうを使用したワインの普及・拡大を進めるために、栽培農家有志により1993年から活動をはじめ、2018年2月で25回目。平成23年のワイン特区の認定により、ワイナリーの設立が相次ぎワインの種類が増え、毎年400名を超える参加者が来町し、チケットの入手が困難なイベントとなっている。ぶどう農家や醸造家との交流を求め、毎年道外から訪れるリピーターもいて満足度の高いイベントとなっている。また、地域の複数の団体が料理を提供しており、ワインを通して地域住民と連携し、地域活性化に役立つイベントとなっている。
旭川	第746なよろ煮込みジンギス艦隊	名寄市	名寄市独自の食文化である「煮込んで食べるジンギスカン」を活用し、「名寄」という地名を知ってもらうための宣伝活動、この食文化を広く市民及び子供達に伝えるための広報活動、名寄市立大学生を将来の「名寄のPR大使」として育成するための育成活動に取り組んでいる。
	中川町商工会	中川町	平成25年度に、中川町で作られた「ハスカップ」を使用した「ハスカップサイダー」を開発した事を機に、中川町のブランド「ナカガワのナカガワ」を発案。これに合わせて買い物袋や包装紙等も統一。平成28年には、東京にサテライトスペース「ナカガワのナカガワ」をオープンし、中川町をアピール。
	占冠村木質バイオマス生産組合	占冠村	「村木」の「カエデ」からメープルシロップを製造するとともに、メープルシロップづくりという他ではなかなか見ることのできない活動をツアー化することで、村に訪れる人を増やし、森林資源にあふれる占冠村の魅力を伝えている。

表彰団体の活動概要(奨励賞)

ブロック	団体名	市町村	活動概要
室蘭	北のなのはな会	安平町	安平町の新たな観光地化、特産品の開発、菜の花残渣を用いたバイオマス燃料(バイオークス)利活用の研究を主な取組みとし、食育教育の推進、菜の花関連団体との交流・情報交換、菜の花の景観を活かしたイベントの共催を行っている。
釧路	一般社団法人 音別ふき落団	釧路市	北海道開拓に貢献してきた特産品の落があり、近年富貴紙が着目されている。自生の落が絶滅の危機に立たされており、減農薬・無農薬の落栽培とその有効活用をすることで、雇用の創出、地域の活性化、高齢者の健康作りに取り組んでいる。
帯広	北海道帯広農業高等学校 食品科学科 地域資源活用班	帯広市	ビートの残渣から抽出される「ラフィノース」という難消化性のオリゴ糖を、豆乳を使ったヨーグルトに使用し、機能的食品の商品化を進めている。産・学・官・金融と連携し地域特産物になるべく完成度の高い商品開発を目指している。
	北海道士幌高等学校 環境専攻班	士幌町	士幌の原植生であり、学術的にも貴重とされているカシワ林の保全活動に取り組んでいる。カシワ林の現況調査や普及啓発活動、再生に向けての活動を行っている。
	株式会社 なまら十勝野	芽室町	「安心・安全・美味しい」を当たり前として安心して買って頂けるように、SNSや直接お客様と触れ合う機会を通して農家を身近に感じていただくよう情報発信しながら活動している。また、現場の作業を関係者に体験してもらう活動もしている。
網走	北海道東藻琴高等学校 農産加工班	大空町	オホーツク産小麦の魅力を発信するため、スイーツ等の商品開発を行い、ネット販売等を通して高校生ならではの地域農業への貢献、地域振興を図っている。
	小清水町ルバーブ生産グループ	小清水町	北海道内で生産例の少ないルバーブの栽培を手がけ、ジャムと冷凍チップの加工・販売を行い、町内イベントでの販売等の活動を通して、ルバーブのPRを積極的に展開している。
留萌	るもい農福連携推進協議会	留萌市	地域農業の労働力不足の解消と、農業生産現場における障がい者の就労機会の創出に向け、地域での障がい者等の就農支援体制の構築や、就農をサポートするための人材の確保、育成を図りながら、農業者と福祉関連事業者など、地域内外との様々な交流活動を行っている。
	上築有機米生産組合	羽幌町	農薬節減・有機肥料使用で栽培された「特別栽培米 おろろん」の生産及び直接販売や、「はぼろ学講座実行委員会」と連携して、減農薬栽培の学習や、特別栽培米水田の見学などを行っている。また、「羽幌シーバードフレンドリー推進協議会」に参加し、水田で害虫を補食する野鳥(海鳥)のフィールド調査などに協力している。
稚内	フラベンチャー問寒クラブ	幌延町	年4回(自然観察会、カヌー体験教室、親子釣り大会、スノーモービル体験)の活動を行っている。日常の学校教育活動では味わえないような体験や夢と冒険、遊びの要素を満喫できる活動内容としている。
	稚内農業協同組合 稚内牛乳	稚内市	稚内牛乳製品の生産・販売、市内イベントでの牛乳の配布や商品販売、市内小学校等でのバター・アイスクリームの製造体験学習を行っている。